科学技術・学術審議会　学術分科会（第78回）における主な意見
（情報科学技術関係）

＜データの利活用関係＞

○　新型コロナウイルス感染症対策で重要な医療データなどの共有がほとんど進んでおらず、今後どのような考え方で取り組むか抜本的な議論が必要。

○　デジタル化が進められてきてはいるが、様々なデータの連携ができていないとの問題が顕在化してきている。

○　データへのアクセスができるようNIIの研究データ基盤の整備を進めるべきである。

○　データを適切に活用するためには、得られているデータの性格や内容等を把握・理解し、活用者に伝えることが重要である。

○　感染症拡大防止とその経済への影響はトレードオフの関係があり、政策の効果を判断するには、関係データを用いて分析を行う必要があるが、これらデータが省庁、地域で分かれており、まとまっていない。プライバシー保護の問題はあるが、様々なデータを即時的、一元的に研究者等に提供できる体制を構築していくべき。

○　数値データのみならず、日本語文献なども含め、幅広く研究資源のデジタル化、オープンアクセス化を進め、研究・教育のリソースとすべき。

○　プレプリントやデータの公表・公開は重要であるが、一方で、クオリティ・コントロールや研究の再現性等も同時に確保していく必要がある。

＜リモート環境・ネットワーク基盤関係＞

○　新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、大学、研究者、学生等をつなぐネットワーク環境が非常に脆弱であった。大学や研究機関等に来られない場合に、リモート等で教育や研究を実施できる環境が必要であり、国がサポートすべき。

○　共同利用機関や共同利用・共同研究拠点において、集まって共同研究を行うことができず、研究活動が停滞した。実験や観測によって可能、不可能はあるが、リモートの活用等を進めるべき。

○ 知識集約型社会を目指す日本のスマート・アイランド化に 向けて、SINETを国の基盤インフラとして拡充・活用するとともに、 国立情報学研究所の体制強化に取り組むべきではないか。また 信頼性のあるデータが社会で共有され、多くの関係者が自由に使えることが重要であり、 個人情報保護・データガバナンスのルールの整備と、「使えるデータ」の整備 が重要ではないか。

○　国際学会や国際共同研究におけるオンラインでの海外とのやりとりは、メリットも多いが、夜間の負担が増えるなどの課題もあり、研究時間の確保や労働時間の管理を適切に行いながら活用することが重要である。

○　研究に充てる時間を確保できる可能性を拓く、オンラインでの教育・研究を、人文学・社会科学の研究者も積極的に活用すべき。また、ネット上で信頼関係をどのように構築するか等の課題は、人文学・社会科学の研究で解決すべく取り組むべき。

○　SINETのみならず、SINET周辺のネットワーク環境（大学内、在宅等）の強化が必要。

○　研究時間を増やす観点から大学や省庁のデジタルトランスフォーメーションを推進することが必要。